

# 教区だより

2016

12月

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

第337号



2 3

特集

「誕生児初参り式」サポート

～教区親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受け事業～

4

ざっぼう  
雑宝



～私を歩ませた言葉～

【筆者】近江第二十六組 徳乗寺 坊守

ひえだに さちか  
比叡谷 紗誓 氏

5

連載

大乘仏教一釈尊観の深化<sup>しんか</sup>一

《第8回》ジャータカ物語の発展(2)

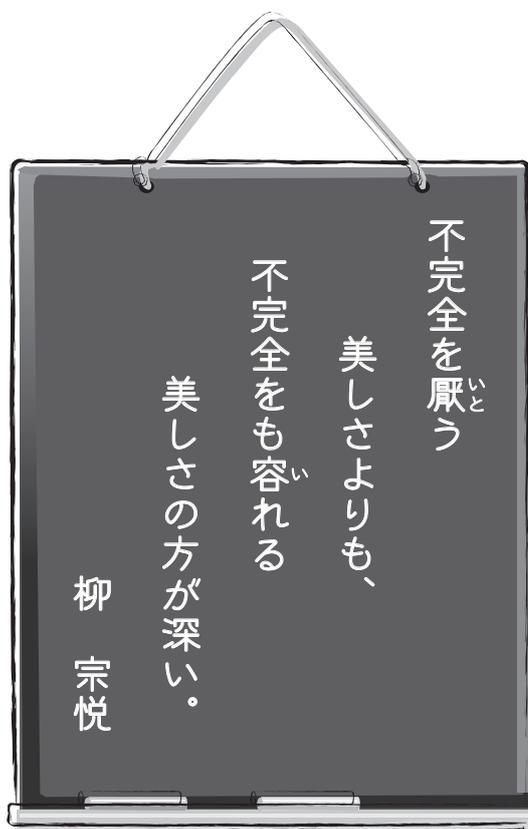
おだ あきひろ  
織田 顕祐 氏

6

京都教区の動き

7

京都教区教化レポート(組織拡充小委員会)



— 教区親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受け事業 —

## 特集 「誕生児初参り式」サポート

教区親鸞聖人御誕生  
八百五十年お待ち受け事  
業として、青少幼年研修  
小委員会が取り組んだ誕  
生児初参りサポート事業  
を特集します。

実際にサポートを受けた  
3ヶ寺の各住職にお話を  
伺いました。

**随** 専寺（山城第一組）において初参り式サ  
ポートが実施されたのは、三月十九日  
（土）でした。随専寺は京都駅のすぐ南にあり、  
古くからの町並と高層のホテル等の建物が混在  
する町中に位置しています。

今回の初参り式では、二家族をお迎えしての  
実施となりました。お寺ではこれまで子ども報  
恩講と花祭りを実施されています。住職の東口  
真由美さんは、誕生児を対象とする初参り式を  
以前から勤めたいと願っておられたとのことだ  
りました。以前、お知り合いのお寺の初参り式で  
ご住職が赤ちゃんを大事そうに抱かれて笑顔でお

られた写真をご覧になり、是非とも思ってお  
られたので、今回の企画に参加されたとのこと  
でした。

住職は、誕生された赤ちゃんとそのご家族が  
仏様の前でも手に手を合わせ、仏様と初縁を結  
び、そのご縁を  
大切にしていた  
だきたい、そし  
ていろいろな世  
代の方々がお寺  
に集い、お寺の  
行事に関わって  
いただきたいと  
いうことを願  
いとしておられま  
す。



し、ご両親から赤ちゃんに向けてメッセージを  
書いていただき、中学入学時に手渡しするため  
に、現在お寺で預かっておられるとのことだ  
りました。

今回、一つの企  
画としてタイム  
カプセルを実施  
し、ご両親から赤ちゃんに向けてメッセ  
ージを書いていただき、中学入学時に手渡しするた  
めに、現在お寺で預かっておられるとのことだ  
りました。

赤ちゃんをお迎えするということで、スタッ  
フのご門徒、住職とも緊張のなか実施したの  
ことでしたが、赤ちゃんがおられることで本堂  
が何とも言えない和やかな雰囲気につつまれて  
「やって良かった！」と実感されたとのことだ  
す。

今回のサポート事業は、以前からの住職の思  
いを後押しし、一歩踏み出すことができた企画  
であったとのこと。これを機会に初参り式  
を継続していきたいと語っていただきました。

## 緑

浄寺（因伯組）において、昨年から花祭  
りと初参り式を兼ねて始められていた治  
田裕臣住職は、イベント的な部分と宗教儀式と  
のバランスをどうするか悩んでいた。そこで、  
今回のサポートの話を聞いて申し込みを決めた。  
イベント的な部分の講師をお願いできるかもし  
れないし、いろいろな情報も手に入るのではな  
いかと考えたためだ。

また昨年は初開催という事もあって、声かけ  
から参加まで、ご自身の子どもが通う保育園の  
保護者や近所の子ども達を中心となった。そう  
すると、宗教色を強くすると誘いにくいという  
点が坊主から指摘された。住職としては、儀式  
の厳かさが必要で有るし、やりたいことの一つ  
だったので、この辺のことも外部の力を借りて  
解決していきたいところだった。

共通していたのは、お二人とも、子ども達や  
そのご両親がお寺に足を運ぶきっかけになれば

と思っていたことだ。そうしたきっかけによって手を合わすという心や生活が始まるのではないだろうか」と治田住職は続ける。



「最近はお内仏のない家も増え、家族が手を合わせているところを見る人は少ないと思います。人が亡くなって初めて宗教に出会うという人も多いのではないかと思えます。生きていくと自分の思い通りにはなりませんし、かならず行き詰まることのあるのではないのでしょうか。だから、花祭りや初参り式がきっかけとなって、自己中心の生き方から、敬いやおかげ様の心、生かされていると受け取ることができる心への転換というか、教えによって受け入れられていくことに出会ってほしいと思います」。

また、こんな事も話してくださった。「初参り式は子ども会だと思えます。学校や家庭ではあれしなさいこれしなさい、これはダメあれはダメ、などと制限をされている子どもが、お寺に来て、そうした制限から解放されていくような場所でありたいと思います。バンドの演奏を

すると、子ども達は本堂で音楽に合わせて飛び跳ねていました。ダメではなく解放されていく場がお寺だと思えます」。

## 願

隆寺（山城第二組）前任職小早川紀さん（おさき）とご家族に話を伺いました。サポートに申し込まれた思いを尋ねると「花まつりを何十年としてきて、変化が無いので、新しい知恵をもらえれば良いな」と坊守が思い立たれたそうです。

願隆寺では、花まつりから縁作りしていくことが仏法聴聞の大事な第一歩だというポリシーのもと、何十年にもわたってご門徒と一緒に花まつりの集いを続けておられます。前任職の思いとして、「報恩講が真宗の証（あまひ）でお釈迦様の誕生日は仏法の証、それらは車の両輪でなければならぬ。仏法が根本にあつてはじめて聴聞の場が生まれる。本山の門上にはお釈迦様がおられるのを見失っている」と語っておられました。また、「花まつりや初参り式をする事によってご門徒の今の情報、状況が見えてくる。言わば現在帳が出来る。子どもや赤ちゃんは一人では来ない、必ず親や祖父母も一緒に来るから、そこでご門徒とのつながりが出来てくる。お寺は過去帳から始まるのではない」と熱く語っていただきました。

今回の新たな試みとして、メッセージカードを行っていきます。きっかけはスタッフとの打ち合わせの時に挙がったアイデアに、准坊守が賛



からの言葉が届くとか、お寺と疎遠になりがちな若い世代とつながる一つの可能性が感じられる」とのことでした。

また、以前から取り組んでおられることとして、献灯を子どもたちの手で行うことがありますが。願いとしては、坊守より「子どもたちに炎を扱う緊張感と、自分もこの場に参加しているという喜びを感じてほしい」とのことでした。寺は行きにくい、入り辛い場所ではないのだと、子どもの時からお寺に親しんで、ご門徒が常に立ち寄れるようなお寺作りを願いとして取り組まれていることを、言葉の端々から感じました。

同したことでした。

今回取り組んでみての感想として、前任職より「二十年三十年と続けて行くことが大切。例えば二十年後に成人式でお寺に参ってもらい、カードを受け取ることで、亡くなられた祖父母

# 雑宝



近江第二十六組 徳乗寺 坊守

比叡谷 紗誓

「私はあの人の生き方からしか、  
真宗は感じない」

この言葉に続けて「あの人を尊敬している」という言葉も聞いて、ああ、その人が「できた人」だから信頼しているんだな…と思いました。しかし何か少し違うかな、という思いが後から湧いてきました。

その方が「生き方からしか真宗は感じない」と言われたのは、私が大谷派の儀式の作法について説明した後のことでした。私が話している間も、その方はずっと、納得できないという思いを姿に表しながら聞いておられました。その後、別の方からの質問「勤行本は両手で持つて、両親指を使ってめくる、とお姑さんに言われたが…」と聞いて、「その作法は違います。それは御文です。赤本をそのように扱う必要はありません」と返した私でした。作法として間

違っている、という事に私は意識がいついて、何故その人がそうしているのか、そのころにはまったく思い至らず、作法としての正誤でぶった切る私でした。そのお姑さんにとつては、それは親鸞聖人が書かれたことが載っている大事な御本だから大切に扱おう、という気持ちの表れだったのでしよう。逆に、私のお敬いのころはどこにあるのか、突きつけられた出来事でした。

僧侶、教師として儀式に関わるからには、作法はどうでもいいこととは言えませんが、何故そうなったのが重要で、大切に扱うべきもの”としてきたのは、「大切にしたい”と思うてきた先人のころが、”勤行本を歩くところに置かない、両手で扱う、生身で持ち歩かない”——という作法に、自然に表れただけのはずです。定められた作法であるか否かという点もありますが、正しい処し方ばかりにこ

だわって、「なぜ、大切にしたいのか」に目がいかなくなっている自分自身ではなかったか。それでは、真宗の作法の形式は伝わったとしても、かたちにとどまってしまいう危険性があると感じたことです。

ひいては、お姑さんがそう言われるならうまくやって下さいね、と言いかけて、私自身が問われるきっかけになったのでした。そもそも、嫁姑の巧いつきあいかた・方法論で、これまで何事もなくやってきた私であつたかを思い出させられたことです。

「(人の) 生き方からしか真宗を感じない」と言われたのは、日々の姿に感じるものがあるということでしょうか…。とはいえ、あの人を信頼していると云いきるその人も、あの人を絶対に間違いをしない完璧な人だから、道徳的に正しい人だから、ということでもないように見えました。では、どういう姿に真宗を感じられたのでしょうか。

また、「その人のお姿にすべて出ている」と言われた方もおられます。私自身は、どう見えているかを心配し、どう見せたいかばかりを考えている私です。自分自身を心配している姿しか見えないのだろう事に思い至ると、恥ずかしいかぎり…。



今回は、ジャータカ物語の中から「菩薩」という概念が生まれ、この菩薩という概念が大乗仏教に展開していくと言いました。このジャータカ物語と大乗仏教の間にはもう一つの重要な鍵があります。それは、ブツダ釈尊の伝記を表す経典が生まれたことです。これを通常「仏伝経典」と呼んでいます。

伝記と言うと普通は、その人物の歴史的な記録をできるだけ客観的にまとめたものことです。しかし、仏伝経典は我々の常識では考えられない様々な奇跡に満ちあふれています。例えば、ブツダ釈尊が誕生のとき七歩歩

いて「天上天下唯我独尊」と宣言したという説話はよく知られています。しかし、それは本当に歴史のなかで実際に起った出来事なのかと問われると、直ちにそうとは言えません。では、昔は科学が今のよう発達してなかったから、そんな不思議なこともそのまま信じたとこののでしようか。おそらくそれも違うと思います。ここに、本シリーズの最初に申し上げた「釈尊観」の意味が隠れていると思うのです。つまり仏伝経典は、歴史上のブツダ釈尊の単なる記録ではなくて、歴史的な事実をふまえながらブツダである釈尊をどのように受け止めたかを表したもののなのです。

仏伝経典には、かなり古い時代のものから比較的新しいものまで、かなりの変容が有ります。みなさんの中には、インドネシアのポルブドゥールという仏教遺跡に仏伝が石のレリーフで表現されていることをご存知の方もあると思います。ポルブドゥールに表現された仏伝はかなり後期のものですが、今ここではごく初期の仏伝経典について考えてみたいと思います。

ブツダ釈尊の伝記を記した経典ですから、カピラ城で誕生されたところから始まるのかという決してそうではありません。「はるか昔に一人の修行者がいて」といった風に始

まります。その修行者は、一切衆生が苦しむすがたを見てこれを救いたいという願いを起し、無限の年月にわたって難行苦行を繰り返すという場面から始まるのです。ここにはどのような苦行を实践したのかという具体的なことはあまり詳しく説かれていないのですが、ブツダ釈尊の前生の物語から始まっているのです。現在のブツダ釈尊の伝記を表すために前生の物語から始めているのです。つまり過去と現在とが一つになってブツダ釈尊の伝記が成り立っているのです。そして仏伝経典は、この前生の釈尊を「菩薩」と呼んでいるのです。

このようにして「菩薩」という概念が明らかになってきます。すると、ブツダになるまでの様々な難行苦行(これまではジャータカと呼ばれていた)は、それがそのまま「菩薩の行」ということになります。この場合の「菩薩」はあくまで、過去のブツダ釈尊のことですが、ジャータカ物語も数多く説かれていますから、難行苦行を内容の違いによって分類整理しなければ全体が見通せないということになります。このようにして、多くのジャータカ物語を分類整理する経典が登場しました。その整理に用いられたのが「六波羅蜜」という視点です。

## 京都教区の動き

### 第一期 第四回拾学舎

十月一日(土) 教区会館にて、藤嶽明信大谷大学教授には「信巻」、泉康夫本願部堂衆には「念仏讃五淘」を、ご講義お稽古いただいた。

藤嶽先生は、『論註』より、称名すれども闇が破られず、願いが満たされないのは、如来が実相身・為物身であり、我が身の為にはたらいでくださっていることを知らないからだと指摘、為物身を一般論とすることを強く否定なさった。泉先生は、もっと言いたいことがおありだと思ふのだが、できるだけ私たちに声を出させようと努力してくださった。両先生は懇談会にも参加してくださった。

(育成員等研修小委員会委員 村上 宗博)

### 湖南地区 同朋婦人の集い

十月五日(水) 栗東文化芸術会館さきら(滋賀県栗東市)中ホールで、東京教区東京二組蓮光寺住職、本多雅人氏をお迎えし、三〇〇名近い方々と共に、「念仏を称える―安心して迷うことができる生活―」のテーマでお話をお聞きしました。

先立った息子さんから「真宗の教えを聞いて

てくれ、念仏を称えてくれ」と戴いたご夫婦、鬱になつてどうにもならない自分に、おばあちゃんの南無阿弥陀仏が聞こえ、南無阿弥陀仏の中に自分はいる。迷っている事は、何一つ無駄なく身をもって甦つてくると。「今こそ法然さん、親鸞さんの教えを」と戴きました。自分を学ぶ大切な集いで、立ち上げて下さった方々に感謝しつつ、今後とも聞法させていただきます。南無阿弥陀仏

(近江第二組坊守会長 服部 順子)



### 第三期 子ども会サポート

十月十七日(月)、山城第一組光久寺においてお寺の子ども会が開催された。光久寺は、教区青少年小委員会の「お寺の子ども会サ

ポート事業」の対象寺院である。



子ども七人と保護者二人、計九名の参加があった。

最初に、念珠作りを行った。子どもたちは、各自好きな珠を選んで糸を通してつないでいき、自分の手首に合う腕輪念珠を作った。昼ご飯は、たこ焼きパーティーで、普通のたこ焼きのほか、ソーセージやチーズ入りのたこ焼きも作り、皆で美味しくいただいた。午後からは、風船をボール代わりにして室内バレーなどをして楽しく遊んだ。



(お寺の子ども会サポートスタッフ 藤井 洋)

当初、勸修寺観光農園(京都市山科区)に芋掘りに行く計画であったが、前日から激しい雨が降り、芋掘りができなくなったため、予定を変更して、念珠作りとたこ焼きを行うことになった。予定の変更にもかかわらず、

## 京都教区教化レポート

### 【組織拡充小委員会】

京都教区教化推進本部会は、各小委員会主査副主査、同和協議会、教区会議員、坊守会、門徒会、推進員連絡協議会で構成されています。組織拡充小委員会は、本部会メンバーで組織された小委員会です。組織拡充小委員会が具体的に所轄<sup>しよかつ</sup>運営する教化活動として、「教区同朋会議」「講師研修会」「教区教化検討会議」があります。

「講師研修会」は住職総合研修会として各地区巡回で帰敬式を課題として開催していましたが、昨年度開催された丹但地区で八地区全てで開催されたこととなります。よって今年度から、昨年度まで「教区教化検討会議」で取り上げていた男女両性で形づくる教団を課題にし、各地区巡回で開催いたします。

また、組織拡充小委員会は教区ホームページの運営管理を行っております。教区ホームページは教区内教化組織が自主的に事業告知等を投稿するかたちをとっています。投稿が少ない教化組織にはたらきかけ、内容充実にむけて取り組んで参ります。

(教化推進本部長 谷 大輔)

## 事務連絡

### 《住職任命》

〔届出順〕

二〇一六年十月二十八日付

山城第二組 長徳寺

近江第十組 常入寺

仁科 洸

清水 光純

〔敬称略〕

### 《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第七組 為形寺前住職 加藤 正順

二〇一六年九月十日 九十三歳

〔敬称略〕

### 《東本願寺出版刊行物のお知らせ》

『真宗大谷派 御伝鈔拝読稽古本』

『御伝鈔』拝読の稽古をされる方におすすすめ。写真・図でわかりやすく所作法が確認できます。



著者 真宗大谷派  
宗務所本廟部  
価格 二、〇一六円

『真宗大谷派 御伝鈔拝読CD』

『御伝鈔』拝読の練習用CD。本文や所作法については『真宗大谷派 御伝鈔拝読稽古本』でご確認ください。



著者 真宗大谷派  
宗務所本廟部  
価格 三、二四〇円

### 《年末・年始事務休暇について》

年末・年始事務休暇として、左記の期間は、教務所の事務の取り扱いを休止します。緊急の場合は、左記緊急連絡さきまでご連絡いただきますようお願いいたします。なお、期間中の授与物のお渡しや院号法名の申請、収骨の受付等は行いませんので、ご承知おきください。

ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解の程、よろしくお願いいたします。

#### 〔事務休暇の期間〕

二〇一六年十二月二十九日(木)より  
二〇一七年 一月 五日(木)まで

〔緊急連絡先(教務所携帯電話)〕

〇九〇―三七一九―七九八二

### 《事務休暇のお知らせ》

教務所員研修のため、一月二十三日(月)は事務休暇とさせていただきます。ご承知おきください。

■ 京都教区教化テーマ ■

今いのちがあなたを生かしている  
 命に感謝 いのちの声 感謝かいのちのめぐり

◆ 教区事業予定

12月 2日(金)	13:30~17:00	出版小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
12月 3日(土)	14:00~21:00	拾学舎(教学・声明作法研修会)	会場◇教区会館2F	大講堂
12月 5日(月)	14:00~17:00	青少幼年研修小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
12月 8日(木)	13:00~17:00	同和協議会現地学習会	会場◇おおくぼまちづくり館	(奈良県橿原市)
12月12日(月)	13:30~17:00	常磐会館運営委員会	会場◇教区会館3F	会議室
12月13日(火)	13:30~17:00	教区改編委員会	会場◇しんらん交流館1F	
12月16日(金)	13:30~18:30	組門徒会正副会長研修会	会場◇教区会館	全館
12月20日(火)	13:30~16:30	聖典学習会	会場◇教区会館2F	大講堂
12月22日(木)	14:00~17:00	教化推進本部会	会場◇教区会館2F	大講堂

◆ 地区・団体事業予定

12月 1日(木)	19:00~20:30	仏教青年会声明教室	会場◇教区会館2F	大講堂
12月 5日(月)	9:30~17:00	坊守会一日研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
	18:30~20:00	仏教青年会	会場◇教区会館3F	研修室
12月 9日(金)	13:30~17:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
12月12日(月)	15:30~18:00	大谷保育協会京都支部	会場◇教区会館3F	研修室
	16:00~18:00	准堂衆会公開講座	会場◇教区会館2F	大講堂
12月14日(水)	9:30~16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講
	18:00~20:00	准堂衆会声明会	会場◇教区会館3F	研修室
12月21日(水)	14:00	伝研自主学習会	会場◇教区会館3F	会議室
12月22日(木)	~10:00	〃		
12月28日(水)	18:00~20:00	准堂衆会声明会	会場◇教区会館3F	研修室

「教区だより」第337号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2016(平成28)年12月1日

発行人 錦 秀見(真宗大谷派京都教務所長)

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164

京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel: 075(351)5260

Fax: 075(351)5256

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

部屋の整理をしていたら、中学卒業時に配布されたクラス通信の最終号が出てきました。今は亡き担任の〇先生から生徒一人ひとりへのメッセージが書かれており、私へは「素直なところはよいが、思い込みで行動するところが多々あります」。思わず頭がくらくらしました。つい数週間前に妻から同じようなこと(後半部分のみ)を言われたからです。この四半世紀、成長していないのか。自分を変えることの難しさを感じながらも、人の話をきちんと聞けるようになろうと決意を新たにしました。(編集委員 本多 真)